

インターネット公開許諾のない文章には  
墨消し処理を施しています。

## 仏教学専攻

### 亀 茲 の 仏 教

—特に鳩摩羅什を中心として—

伊 藤 真 澄

亀茲国は天山北道のほぼ中央にあり、古来よりシルクロードを中心として、文化の東西交流に一役割を果し、かつ又仏教の東漸にも当然何らかの役割を果したものである。中国仏教が、格義仏教から教学仏教へと転換する契機を与え、中国的大乗仏教が成立したのは鳩摩羅什及び彼に続く門下によつてであるといわれている。鳩摩羅什が故郷とするのがこの亀茲国である。羅什が長安に於いて訳出した經典は三百余巻といわれそのほとんどが大乗經論である。この様な、わづか十年間に大部な大乗經論を訳出し又仏教弘通に果すことの出来た素地は亀茲国に於いてであるが、亀茲国に関する中国諸文献は、そのほとんどが小乗説一切有部を学していたと記録されてお

り、一般に龜茲国は小乗国として中国に知られておりながら中国仏教の大乗教学の淵源を龜茲出身の羅什としていふという表面的に見れば甚だ理解に苦しむ現象がある。

出三藏記集及び高僧伝の羅什伝を見ると、羅什がカシミールに遊學の帰途に沙車（ヤルカンド）疎勒（カシニガル）を経て龜茲に還つて後、疎勒で初めて龜茲国とは別の仏教にでくわし「吾昔學小乘如下不識金以鎗石為妙」といふ、羅什はこゝで初めて大乘に改信したのである。

即ちこの頃の龜茲国の仏教について、出三藏記集比丘尼戒本所出本末序（大正藏55・79・c）を見ると、仏図舌弥を中心にして葱嶺（パミール）以東の一中心地であつた様である。この様な仏教の一中心地であつたに拘らず羅什はなぜカシミールまで行かねばならなかつたかの理由については春日井真也氏は、父羅炎の政治的亡命のための母との行動であるうとしている。羅什は伝記には龜茲国に於いては昆曇のみしか學んでいない。羅什がカシミールに行つた理由が龜茲国仏教にあきたらずに求めて行つたのであるとすれば、比丘尼戒本所出本末序の記述より

矛盾するわけである。従つて龜茲国は説一切有部の中心地であるカシミール小乗仏教であつたといえる。中国に龜茲国から十誦比丘尼戒が伝わつたことが出三藏記集（大正藏55・81・c）関中近出二種博文夏坐雜十二事並雜事共卷前中後記に、述べられている。

僧純曇充拘夷国来。從雲臺藍寺於高僧沙門仏図舌弥許。得此比丘尼大戒及授戒法、受坐已下至劍蓐法。

拘夷国とは龜茲国の別名であり、舌弥は中国に持ち帰られるのを強く反対したが、これによつて、有部の根本戒が伝えられたことがわかり、同時に龜茲国が有部の教学であることが更に証拠づけられるものである。

しかしながら龜茲国に於いて大乘が全然なかつたといふことは断言できない。羅什が龜茲に還つて住した寺院は王新寺である。こゝで彼は放光般若經を發見し、雀梨大寺に於いて諸大乘經を読んだことが出三藏記集羅什伝（大正藏55）に述べられていることは注目すべきことである。従つて龜茲国に於いても大乘經典のあつた事が知られ、羅什は王新寺の放光般若、雀梨大寺の大乘經典に

よつて更に改信は確固たるものになつたのである。

即ち疎勒、莎車、干闥国に於いて大乘が發展しつゝあつたその波及が羅什をまたずしてすでにこの国にも入つていたのである。

従つてこの様なことから考えると羅什がカシミールに渡らねばならなかつた理由は母尼の政治的理由のため亀茲をはなれ時期を待つ必要があつたのである。

少なくとも羅什時代のこの国の仏教は説一切有部が幾分勢力を持つていたが、国内の大乘教の發展を認めざるを得ず大乘小乗が互いに共存していた時代である。更に大乘を確固たるものにしたのは王白純が大乘学者を新寺に集め援助していたことである。

しかしこの様な共存時代がその後ずつと続いたかについては疑問である。唐代になつて玄奘が見た亀茲はやはり小乗有部であり大乘に関する記事が見当らない。又大唐大慈恩寺三蔵法師伝に、玄奘が屈支（亀茲）の阿奢理界寺に於いて木叉毘多との会話があるが、それによると、此土維心俱舍毘婆沙等一切皆有。学之足得不煩西涉受

艱辛也。法師報曰此有瑜伽論不。毘多曰何用問是邪見書乎。真仏弟子者不学是也。（大正藏50・226・c）とあつて完全な小乗教である。

このように玄奘が見た亀茲国は小乗であつて大乘の記事がないことから、鳩摩羅什が呂光によつて中国に連れ去られて以後、大乘はこの国から姿を消したのではなからうか。即ち帛純王の新寺に大乘学者が羅什とともに竜樹系の般若空思想を学んでいたのであるが、同時に帛純が呂光によつて征伐され亀茲国が衰運に向つていた事実から次第に大乘は姿を消したのであつて亀茲国はその后大乘化されてしまつたと断言できないのである。

### 往生論の名称について

長 田 淨 濟

往生論はくわしくは「無量寿経優波提舍願生偈」という。今はこの「無量寿経優波提舍願生偈」を分解してそ